



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月6日

上場取引所 東

上場会社名 東邦ホールディングス株式会社

コード番号 8129 URL <https://www.tohohd.co.jp/>

代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)有働 敦

問合せ先責任者 (役職名)取締役 経営管理本部長兼経営企画・IR部長 (氏名)河村 真 (TEL)03(6838)2803

四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 2020年12月4日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	595,997	△6.0	1,279	△83.8	4,225	△61.4	1,820	△74.4
2020年3月期第2四半期	634,050	6.8	7,920	64.9	10,951	42.9	7,121	44.1

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 8,699百万円 (87.1%) 2020年3月期第2四半期 4,650百万円 (△68.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	25.82	23.68
2020年3月期第2四半期	104.37	91.28

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	684,506	239,136	34.9
2020年3月期	670,827	231,009	34.4

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 238,973百万円 2020年3月期 230,842百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
2021年3月期	—	15.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2020年3月期配当金の内訳 記念配当 10円00銭 普通配当 30円00銭

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

2021年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大による影響を現時点で判断することが困難なことから未定としております。開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期2Q	78,270,142株	2020年3月期	78,270,142株
2021年3月期2Q	7,759,802株	2020年3月期	7,759,209株
2021年3月期2Q	70,510,971株	2020年3月期2Q	68,237,987株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(四半期連結貸借対照表関係)	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期における医療用医薬品市場は、2020年4月の薬価改定やジェネリック医薬品使用促進をはじめとする医療費抑制策の影響に加えて、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う営業活動の自粛や感染リスクを警戒した患者様の受診抑制の影響などにより、引き続き厳しい環境下で推移しました。このような状況において、当社グループは、医療・健康・介護に携わる企業集団として、「非常時においても医薬品等を安定供給する」という当社グループの社会的使命の下、医療提供体制を維持すべく医薬品等の安定供給を最優先とした活動に努めました。また、当社グループのパート・派遣社員を含む全従業員に対して当事業年度上期に必要な枚数のサージカルマスクを配布するなど従業員の安全と感染拡大防止のための施策を行いました。

今年9月には東京都が指定する災害時広域輸送基地「京浜トラックターミナル」内に総合物流センター「TBCダイナベース」（東京都大田区）が稼働いたしました。最新鋭のロボットの導入など更なる自動化を図り100パーセントに限りなく近い出荷精度を担保することでお得意先・当社グループ双方の業務効率化に貢献する「ノー検品システム」を推進する配送体制を構築しております。また、東京都内唯一の医療用医薬品物流センターであるTBCダイナベースは、災害時の医薬品配送拠点としての役割を果たすだけでなく、医薬品の保管場所を共有する医薬品卸の共同物流・配送センターとして東京都より許可を取得し、国内で初めて共同物流を実現したセンターとなっております。このような当社グループの高機能な物流体制、緊急時への対応とこれまでの受託実績を評価いただき、シンバイオ製薬株式会社の抗悪性腫瘍剤トレアキシ[®]の流通業務を受託することとなりました。

当第2四半期の連結業績は、売上高595,997百万円（前年同期比6.0%減）、営業利益1,279百万円（前年同期比83.8%減）、経常利益4,225百万円（前年同期比61.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,820百万円（前年同期比74.4%減）となりました。

セグメントの業績の概略は以下のとおりです。なお当連結会計年度より共創未来ファーマ株式会社を新たに連結子会社としたことに伴い、セグメント区分に医薬品製造販売事業を追加しております。

医薬品卸売事業においては、緊急事態宣言下では営業活動を原則自粛し、医薬品の安定供給を最優先とした活動を行っていましたが、解除後は医療機関の要請に応じながら段階的に営業活動を再開しております。また、薬局本部システム『ミザル』を活用した配送回数最適化や、納品時に検品を行わない「ノー検品」の推進など、お得意先・当社グループ双方の業務効率化に貢献する配送ビジネスモデルを推進しております。さらに資本提携先であるエンタッチ株式会社との協業によるリモートディテリングサービスや、初診受付サービス・Future ENIFなど顧客支援システムの提案によるお得意先との関係強化に努めたほか、ワークスタイルの変革と業務プロセスの見直し等による経費削減にも取り組みました。

また、「医療用医薬品の流通改善に向けて流通関係者が遵守すべきガイドライン」に基づき、個々の製品価値に見合った単品単価交渉に努めましたが、卸間の価格競争激化の影響を大きく受けたことに加え、新型コロナウイルスへの感染を警戒した患者様の受診抑制の影響はまだまだ継続しており、当第2四半期の医薬品卸売事業の売上高は572,708百万円（前年同期比6.1%減）、セグメント利益（営業利益）は1,844百万円（前年同期比77.3%減）となりました。

調剤薬局事業においては、調剤報酬改定への対応に取り組むとともに、顧客支援システムを活用した店舗業務の効率化・標準化による収益性の改善に取り組みました。しかしながら患者様の受診抑制に伴う処方箋応需枚数の減少により、売上高は45,077百万円（前年同期比5.5%減）、セグメント利益（営業利益）は763百万円（前年同期比43.8%減）となりました。

医薬品製造販売事業においては、今年7月に1成分3品目を新たに発売し、さらに8月には2成分7品目の製造販売承認を取得するなど、高品質・高付加価値のジェネリック医薬品の安定供給とともに製品ラインナップの拡充を図り、2020年9月末時点でのジェネリック医薬品の販売製品は81成分195品目となりました。この結果、売上高は3,970百万円、セグメント利益（営業利益）は429百万円となりました。

治験施設支援事業においては、売上高は90百万円（前年同期比30.4%減）、セグメント損失（営業損失）は170百万円、情報機器販売事業においては、売上高は532百万円（前年同期比0.7%減）、セグメント損失（営業損失）は72百万円となりました。

（注）セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて0.0%増加し、478,015百万円となりました。これは、現金及び預金が6,284百万円、商品及び製品が3,556百万円それぞれ増加し、受取手形及び売掛金が11,141百万円減少したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて7.1%増加し、206,490百万円となりました。これは、有形固定資産が4,060百万円、投資有価証券が9,221百万円それぞれ増加したこと等によります。

この結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べて2.0%増加し、684,506百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて0.4%増加し、379,548百万円となりました。これは、短期借入金が2,256百万円増加したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて6.5%増加し、65,821百万円となりました。これは、その他のうち繰延税金負債が3,561百万円増加したこと等によります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて1.3%増加し、445,369百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて3.5%増加し、239,136百万円となりました。これは、その他有価証券評価差額金が6,879百万円増加したこと等によります。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較し6,276百万円増加しました。その結果、当第2四半期連結累計期間末の資金残高は86,289百万円（前年同期比29,096百万円増加）となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、8,073百万円（営業活動によるキャッシュ・フローが前年同期比16,400百万円増加）となりました。これは、資金増加要因として、税金等調整前四半期純利益4,064百万円を計上、減価償却費2,799百万円、売上債権の減少額11,459百万円がありましたが、資金減少要因として、たな卸資産の増加額1,946百万円、未払消費税等の減少額2,523百万円、法人税等の支払額4,299百万円があったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、2,869百万円（投資活動によるキャッシュ・フローが前年同期比5,023百万円増加）となりました。これは、資金減少要因として、有形固定資産の取得による支出1,055百万円、無形固定資産の取得による支出1,223百万円があったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は、970百万円（財務活動によるキャッシュ・フローが前年同期比2,940百万円増加）となりました。これは、資金増加要因として、短期借入金の純増加額3,245百万円がありましたが、資金減少要因として、ファイナンス・リース債務の返済による支出746百万円、配当金の支払額1,410百万円があったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

①連結業績予想について

2021年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大による影響を現時点で判断することが困難なことから未定としております。

開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

②剰余金の配当（中間配当）および期末配当予想について

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題のひとつとして位置づけ、1株当たりの利益を向上させることが責務であると認識しております。利益配分については、将来の収益基盤の強化と市況変動に備えて内部留保の充実に努めながら、配当政策は安定配当を基本としております。

配当予想を未定としておりましたが、この方針のもと、2021年3月期第2四半期連結累計期間の業績等を勘案し、2020年9月30日を基準日とする剰余金の配当および2021年3月期の期末配当予想を下記の通りとさせていただきます。

剰余金（中間期）の配当の内容

	決定額	直近の配当予想	前期同期実績 (2020年3月期中間)
基準日	2020年9月30日	同左	2019年9月30日
1株当たり配当金	15円00銭	未定	20円00銭 (普通配当15円00銭) (記念配当5円00銭)
配当金総額	1,057百万円	—	1,405百万円
効力発生日	2020年12月4日	—	2019年12月6日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金

期末配当予想の内容

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	年間
前回予想	—	未定	未定
今回修正予想	—	15円00銭	30円00銭
当期実績	15円00銭	—	—
前期実績 (2020年3月期)	20円00銭 (普通配当15円00銭) (記念配当5円00銭)	20円00銭 (普通配当15円00銭) (記念配当5円00銭)	40円00銭 (普通配当30円00銭) (記念配当10円00銭)

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	84,219	90,504
受取手形及び売掛金	285,548	274,406
有価証券	10	10
商品及び製品	75,679	79,235
原材料及び貯蔵品	-	243
その他	32,838	34,107
貸倒引当金	△337	△492
流動資産合計	477,958	478,015
固定資産		
有形固定資産	96,399	100,459
無形固定資産		
のれん	760	550
その他	3,843	4,782
無形固定資産合計	4,604	5,333
投資その他の資産		
投資有価証券	80,351	89,573
その他	13,930	13,583
貸倒引当金	△2,416	△2,459
投資その他の資産合計	91,865	100,697
固定資産合計	192,869	206,490
資産合計	670,827	684,506

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	355,140	356,948
短期借入金	2,666	4,922
未払法人税等	5,267	1,772
賞与引当金	3,392	3,251
役員賞与引当金	82	41
返品調整引当金	287	235
資産除去債務	20	37
その他	11,144	12,339
流動負債合計	378,000	379,548
固定負債		
社債	20,063	20,053
長期借入金	19,223	17,964
退職給付に係る負債	2,042	2,245
資産除去債務	1,142	2,774
その他	19,345	22,783
固定負債合計	61,817	65,821
負債合計	439,818	445,369
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,649	10,649
資本剰余金	49,271	49,378
利益剰余金	165,745	166,887
自己株式	△15,785	△15,784
株主資本合計	209,881	211,132
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25,469	32,348
土地再評価差額金	△4,507	△4,507
その他の包括利益累計額合計	20,961	27,840
新株予約権	166	163
純資産合計	231,009	239,136
負債純資産合計	670,827	684,506

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	634,050	595,997
売上原価	577,290	546,925
売上総利益	56,760	49,071
販売費及び一般管理費		
役員報酬及び給料手当	20,992	20,265
賞与引当金繰入額	3,514	2,896
役員賞与引当金繰入額	35	41
退職給付費用	119	122
福利厚生費	4,038	3,887
車両費	554	458
貸倒引当金繰入額	△10	201
減価償却費	2,711	2,569
のれん償却額	328	209
賃借料	3,749	4,145
租税公課	1,145	950
仮払消費税の未控除費用	2,606	3,101
その他	9,052	8,940
販売費及び一般管理費合計	48,839	47,791
営業利益	7,920	1,279
営業外収益		
受取利息	40	38
受取配当金	760	796
受取手数料	1,636	1,541
負ののれん償却額	4	-
持分法による投資利益	29	-
その他	735	913
営業外収益合計	3,207	3,289
営業外費用		
支払利息	15	40
持分法による投資損失	-	4
不動産賃貸費用	131	126
その他	30	172
営業外費用合計	177	343
経常利益	10,951	4,225

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
特別利益		
固定資産売却益	12	2
投資有価証券売却益	63	-
事業譲渡益	13	3
その他	1	0
特別利益合計	89	5
特別損失		
固定資産処分損	42	10
減損損失	107	38
投資有価証券評価損	15	72
関係会社株式評価損	53	35
その他	13	9
特別損失合計	232	166
税金等調整前四半期純利益	10,808	4,064
法人税、住民税及び事業税	3,943	1,712
法人税等調整額	△256	531
法人税等合計	3,686	2,244
四半期純利益	7,121	1,820
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,121	1,820

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	7,121	1,820
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,458	6,849
持分法適用会社に対する持分相当額	△12	29
その他の包括利益合計	△2,471	6,879
四半期包括利益	4,650	8,699
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,650	8,699
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	10,808	4,064
減価償却費	2,711	2,799
減損損失	107	38
のれん償却額	328	209
負ののれん償却額	△4	-
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	25	22
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	8	△52
賞与引当金の増減額 (△は減少)	106	△233
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△35	△40
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△40	197
受取利息及び受取配当金	△800	△834
支払利息	15	40
固定資産除売却損益 (△は益)	30	8
投資有価証券売却及び評価損益 (△は益)	△47	80
売上債権の増減額 (△は増加)	△11,644	11,459
たな卸資産の増減額 (△は増加)	6,247	△1,946
その他の資産の増減額 (△は増加)	1,493	△2,040
仕入債務の増減額 (△は減少)	△16,602	725
その他の負債の増減額 (△は減少)	△1,129	△259
未払消費税等の増減額 (△は減少)	1,454	△2,523
その他の損益 (△は益)	△2,013	△2,276
小計	△8,980	9,439
利息及び配当金の受取額	790	826
利息の支払額	△29	△42
法人税等の支払額	△2,272	△4,299
その他	2,164	2,149
営業活動によるキャッシュ・フロー	△8,326	8,073

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△696	△692
定期預金の払戻による収入	733	684
有形固定資産の取得による支出	△7,810	△1,055
有形固定資産の売却による収入	184	31
無形固定資産の取得による支出	△285	△1,223
無形固定資産の売却による収入	-	0
投資有価証券の取得による支出	△157	△292
投資有価証券の売却及び償還による収入	213	50
関係会社株式の取得による支出	△5	△410
関係会社株式の売却による収入	46	-
資産除去債務の履行による支出	△2	△2
貸付けによる支出	△188	△230
貸付金の回収による収入	60	220
その他	16	52
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,892	△2,869
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	36	3,245
長期借入金の返済による支出	△172	△115
自己株式の取得による支出	△1	△1
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△810	△746
配当金の支払額	△1,022	△1,410
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,969	970
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△18,189	6,175
現金及び現金同等物の期首残高	75,382	80,013
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	-	101
現金及び現金同等物の四半期末残高	57,192	86,289

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

当社連結子会社である東邦薬品株式会社は、2019年11月27日に独立行政法人地域医療機能推進機構（ＪＣＨＯ）を発注者とする医療用医薬品の入札に関し、独占禁止法違反の疑いがあるとして、公正取引委員会による立入検査を受け、また2020年10月13日には公正取引委員会に加え東京地方検察庁特別捜査部による捜索を受けました。

これらの結果により、今後当社グループの連結業績に影響を及ぼす可能性があります、現時点ではその影響額を合理的に見積ることは困難であります。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					調整額 (百万円) (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円) (注2)
	医薬品 卸売事業 (百万円)	調剤薬局 事業 (百万円)	治験施設 支援事業 (百万円)	情報機器 販売事業 (百万円)	計 (百万円)		
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	585,968	47,567	129	385	634,050	—	634,050
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	23,986	146	—	150	24,283	△24,283	—
計	609,955	47,714	129	535	658,334	△24,283	634,050
セグメント利益又は損失(△)	8,115	1,358	19	△77	9,415	△1,494	7,920

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間の内部取引の消去、未実現利益の消去及び全社費用によるものであります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント						調整額 (百万円) (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円) (注2)
	医薬品 卸売事業 (百万円)	調剤薬局 事業 (百万円)	医薬品製造 販売事業 (百万円)	治験施設 支援事業 (百万円)	情報機器 販売事業 (百万円)	計 (百万円)		
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上 高	549,273	45,074	1,104	90	454	595,997	—	595,997
(2) セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	23,434	2	2,866	—	77	26,380	△26,380	—
計	572,708	45,077	3,970	90	532	622,378	△26,380	595,997
セグメント利益又 は損失(△)	1,844	763	429	△170	△72	2,794	△1,514	1,279

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間の内部取引の消去、未実現利益の消去及び全社費用によるものであります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間から共創未来ファーマ株式会社を連結の範囲に含めたことにより、「医薬品製造販売事業」を報告セグメントに追加しております。